

追加取材・小川美穂さん



【まちつくインタビュー特別編・真岡市議会議員インタビュー】

市民から直接選挙で選ばれる市議会議員。市民の声を行政に届ける身近な存在ですが、一人ひとりが「どんな人なのか」を知るための情報が少ないと感じていました。そこで！まちをつくる一人の市民としての議員さんはどんな方なのか？まちつくインタビュー特別編としてインタビューさせていただきました！インタビューの趣旨に賛同し、ご協力いただいた議員のみなさまを、議席順に掲載していきます。

(聞き手：真岡市地域おこし協力隊 栗村千愛)

*

場から仕組みへ。誰もが居場所を持てる地域を

ー2025年の真岡市議会議員選挙補欠選挙で議員になりました。立候補されたきっかけは？

NPO法人の代表理事をする中で、活動に限界を感じたことがきっかけです。個人に対するサポートはできても、後から同じ状況の子が出てきてしまう。仕組みを変えないことには、本質的に学びの場を楽しいものにするのは難しいと感じました。それまでも議員さんをお願いして、不登校や障害のあるお子さんへのサポートについて一般質問していただいていたが、違うニュアンスになってしまったり、優先順位が低くなってしまったりと課題もあって。だったら自分が中に入って、まちづくりを動かしたいと考えました。

補欠選挙だったのでもっと準備したらと言われましたが、2年待っていたら今在学している子たちは卒業してしまいます。やりたいことがどんどん遅れるだけだと思い、思い切って出馬しました。

ー議員になって変化はありますか？

議員になる前と同じことをしていても、好意的に話を聞いてくださる方が増えました。市議選に出たことで本気だと認めていただけたんだと思います。議員になる前も本気でやっているつもりでしたが、例えば見ず知らずの方に「不登校に関する活動をしています」と自分から挨拶するようなことはなくて。関わる方の範囲が広がりましたし、一緒にやろうという仲間が増えて、良かったと思っています。

ー今後取り組みたいことを教えてください。

いろいろな方とつながって、手をつなぎ合って活動したいと考えています。先日、ろう者の方と自閉症の方と一緒に活動する機会がありました。自己紹介のときに自閉症のお兄さんが一本締めをしたら、それがルールになってみんな一本締めするようになって…予想外のことが面白くて、みんな笑顔になりました。どうしてもそれぞれのコミュニティに分かれてしまいがちですが、一緒に活動すると楽しいんですね。その楽しさがいろいろなところで生まれるといいなと思います。

また、そうやってつながっていくことで、まちの中でも声を掛け合うような関係性の人が増えます。ぎゅうぎゅうの満員電車で、知らない人だと無遠慮に押したり、足を踏まれて痛いと思ったり、嫌な感情が先に出てしまうかもしれませんが、知っている人だったらそうならないようお互い気をつけるはず。知っていれば想像力が働き、丁寧に暮らせると思うのです。

ハロハロラボは、いろいろな方と関われる一つの「場」でした。今後は地域の中に、そんな場がたくさんできる「仕組み」を作っていきたいと考えています。学校を卒業しても、仕事でうまく行かなくても、地域のどこかに支え、支えられる緩やかなつながりがある。もっと自由にもっと選んで、誰もがどこかに居場所を持てるような地域にしていきたいです。